

平成 23 年 1 月 18 日

世田谷区立八幡中学校
校長 阿部 陽 一 様

世田谷区立八幡中学校
学校関係者評価委員会
委員長 中嶋 啓 子

平成 22 年度世田谷区立八幡中学校 学校関係者評価結果について
(前年度の改善方策について実行した改善結果を含む)

本年度の学校関係者評価の結果を分析・検討し、並びに自己評価の報告を受け、以下のようにとりまとめましたので、ご報告いたします。

今回の学校関係者評価委員会の報告を次年度の学校経営にご活用いただき、八幡中学校がなお一層発展されることを委員会一同祈念いたします。

1. 調査結果の概要

昨年度より保護者の回収率は微増 (71.2% → 72.3%)、地域における回収率は大きく伸びた。(47.5% → 69.4%)

全体的に見て、各設問の回答から『肯定的評価』(A「とても思う」・B「そう思う」)と『否定的評価』(C「あまり思わない」・D「思わない」)及び『わからない』(E)に分けてその割合を比較してみると、おおむね『肯定的評価』が多い。昨年度は『肯定的評価』の数値が一昨年度より高くなった項目が大幅に多かったが、本年度もまた、さらに『肯定的評価』が伸びた項目が割と多かった。

昨年度の学校関係者評価の結果をうけ、今年度の改善・努力をした項目について考察し、今年度どのように評価されているか結果と共に分析する。また、昨年の評価に比べ数値的に低くなった項目や『分からない(E)』の比率の高かった項目については、結果をよく吟味し、さらに改善・努力する必要がある。

2. 調査の結果からみる八幡中学校の活動について

(1) 保護者の評価

・全38項目中『肯定的評価 (A「とても思う」・B「そう思う」)』

5割を超えなかったもの 0項目
5割を超えているもの 3項目
6割を超えているもの 11項目
7割を超えているもの 12項目
8割を超えているもの 10項目
9割を超えているもの 2項目

※参考 昨年度 (H21年評価) 37項目

5割を超えなかったもの 0項目
5割を超えているもの 4項目
6割を超えているもの 11項目
7割を超えているもの 11項目
8割を超えているもの 11項目
9割を超えているもの 0項目

注) 質問項目数は同数、内容は2項目変更

- ・昨年度に比べて『肯定的評価 (A「とても思う」・B「そう思う」)』が増加した項目は14項目であった。
減少した項目は8項目であった。
- ・昨年度に比べて『否定的評価 (C「そう思わない」・D「思わない」)』が増加した項目は6項目であった。
減少した項目は9項目であった。
- ・他の項目は、ほぼ横ばい。

<Ⅰ 重点項目への取組>

※以下、『肯定的評価(A「とても思う」・B「そう思う」)⇒『肯定的評価』と略記

『否定的評価(C「そう思わない」・D「思わない」)⇒『否定的評価』と略記

「地域の期待に応え、地域とともに子どもを育てる学校づくり」

- ・学校独自項目「地域運営学校である八幡中学校は、地域と協力して子どもを育てている」では肯定的評価が85%、否定的評価は6%であり、数値目標の80%を超えた。

<Ⅱ 地域とともに子どもを育てる教育>

【保護者・地域連携】

- ・9-⑴「地域の人材や施設を教育活動に活かしている。」の項目で肯定的評価は69%と横ばいであった。
- ・9-⑵「地域の活動や行事によく協力している」の項目でも、肯定的評価が87%と横ばいであった。
- 独自項目で非常に高い評価を受けている。地域では学校側との連携・協力関係は継続してよくできていると思われる。

【学校協議会】

- ・9-⑶「学校協議会の活動が活発である」の項目は、59%が肯定的評価をしている(昨年度と同じ)。否定的評価は5%(昨年度15%)であった。
- 教員は80%が肯定的評価をしているが、八幡中学校の学校協議会の活動の内容が、他の学校と異なることについて、学校としてさらにPRする努力が必要である。この項目については毎年の課題となっているが、地域では浸透しつつある。

【広報活動・情報提供】

- ・8-⑴「学校からの通信に、保護者の知りたい情報が盛り込まれている」、8-⑵「本校は、保護者に対していかに説明や対応をしている」、8-⑶「学校公開や保護者会を通して学校の様子がよくわかる」は、いずれも肯定的評価が80%以上であった(「ていねいな対応」は90%に伸びた)。肯定的評価が上がっている。昨年度設けられた8-⑷「本校のホームページは充実している」では肯定的評価が、61%で変わらなかった。
- 教員は、教育活動の公開については93%が肯定的評価をしているが、積極的な情報発信についてはまだ50%程度である。保護者が知りたい情報が何かを知る努力とともに、今後も引き続き情報発信を継続していただきたい。
- 「ていねいな対応」については高評価である。改善・努力の成果だと思われる。
- ホームページについては知らないという評価をさらに改善していくよう、取り組みを継続していただきたい。

<Ⅲ 未来を担う子どもを育てる教育>

【学習指導】

- ・1-⑴「本校では、子どもにとって分かりやすい授業をしている」1-⑵「本校は授業を通して、子どもたちに学力がついている」1-⑶「通知表で評価されたことは納得できる」の肯定的評価はいずれも60%を超えたが「通知表の評価」については昨年度より7ポイント下がった。1-⑷「本校では授業の開始・終了時間を守って授業が行われている」は肯定的評価が73%でほぼ横ばいとなっている。
- 教員の自己評価(高評価が多い)と比較して気になる項目の一つである。保護者の肯定的評価が向上する努力を願う。

【生活指導】

- ・どの項目も肯定的評価が伸びて高いが、2-⑵「本校では子どもたちに問題となる行動が少ない」の項目は肯定的評価が73%と、12ポイント上がった。
- ルールについての指導や相談しやすいことについての評価が高いことから、問題行動をなくすことと合わせ、さらに生徒相互の学びを活かすことを期待する。

【学校行事】

- ・どの項目も肯定的評価が伸びて高く、3-⑴「子どもたちが活躍する場面がたくさんあり、内容が充実している」3-⑵「子どもたちは学校行事を楽しみにしている」は90%前後となっている。
- 評価がとても高く、すばらしいことである。今後も引き続き努力してほしい。

【健康・体力】

- ・11-⑷「本校では、健康の増進や体力の向上に取り組んでいる」では肯定的評価は62%にとどまっている(ほぼ横ばい)。

- 体力向上を図る取り組みを期待する。

【キャリア教育・進路指導】

- ・進路指導についてはすべての項目で、昨年も向上したが、さらにより大きく向上している。
 - 進路指導・キャリア教育について学校側はより詳細に説明し、理解してもらう努力をしてきており、その成果が出てきている。自己評価では多くの情報提供をしていると保護者より高い評価をしている。さらに高い評価を得られるよう、どのような情報を求めているかを探る必要もある。

【部活動】

- ・「回数や時間は適切である（75%）」「入りたい部活がある（71%）」はほぼ横ばいである。「学校全体で部活動を活発にしようと努力している（68%）」は前年度より5ポイント上がっている。
 - 学校の自己評価では指導体制について、評価がやや低い。努力している様子がうかがえるが、引き続き指導の継続を期待する。

<Ⅳ 信頼と誇りのもてる学校づくり>

【学校経営・学校運営】

- ・6-(1)「学校の重点目標が明確（74%で6ポイント上昇）」、(3)「学校長をはじめ教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる」のいずれも評価が高く、特に「教職員が協力して教育活動に取り組んでいる」の評価は昨年度に引き続き80%となっている。6-(2)「校長のリーダーシップ」については、校長が変わったこともあり、「わからない（27%で8ポイント上昇）」が増えた分、肯定的評価が減ったと思われる。

【教職員】

- ・7-(1)、(2)共に『肯定的評価』は引き続き80%を超えており、教員の対応については概ね理解されている。
 - 学校運営、教職員については評価が高いことから、今後も継続した経営・対応を期待する。

【保健管理】【安全管理】

- ・安全についての指導や避難訓練については、安全性を高めていると肯定的評価をしているのは79%と少し伸びている。しかし、10-(2)「安全確保のための情報提供」、10-(3)「施設の安全は確保されている」では肯定的評価はそれぞれ57%、53%で、前年度より下回っている。10-(4)「環境や給食等への衛生面の配慮」は肯定的評価が66%と、どちらともいえない評価だった。
 - 学校の安全性や安全への取組などの説明はまだ不十分。不審者対策、防災・防犯対策など項目ごとに伝える努力をさらに願いたい。また、何の安全性を求めているのかを尋ねることも大切である。

<Ⅴ 教育環境の整備>

【施設設備】

- 自己評価によると、整備状況は肯定的評価が80%、点検・管理は93%が肯定的評価である。

<Ⅵ 学校生活全般>

- ・学校生活全般については昨年度と同様に比較的肯定的評価は高い。

<学校独自項目>

- ・12-(1)「地域運営学校である八幡中学校は、地域と協力して子どもを育てている」では85%が肯定的評価をしており高い。12-(2)「世田谷9年教育パイロット校の指定を受け、小学校との連携を深めた教育力と特色を生かした教育活動を展開している」については、93%と非常に高くなった（昨年度70%）。
 - 具体的な取り組み内容を伝えていった結果と考えられる。
- ・12-(4)「進路便りでは進路について必要な情報がよくわかる」の肯定的評価は71%と8ポイント伸びた。
 - 必要な情報について教員と保護者との共通理解ができてきたのではないかなと思われる。保護者が必要とするものが何かを、さらに探っていくとよいと思われる。

(2) 地域の方の評価

- ・全20項目中『肯定的評価（A「とても思う」・B「そう思う」）』

5割を超えなかったもの	0項目
5割を超えているもの	1項目
6割を超えているもの	2項目
7割を超えているもの	3項目
8割を超えているもの	12項目
9割以上のもの	2項目

※参考 昨年度（H21年評価）20項目

5割を超えなかったもの	2項目
5割を超えているもの	1項目
6割を超えているもの	4項目
7割を超えているもの	5項目
8割を超えているもの	7項目
9割を超えているもの	1項目

- ・昨年度に比べて『肯定的評価（A「とても思う」・B「そう思う」）』が増加した項目は11項目であった。
減少した項目は5項目であった。
- ・昨年度に比べて『否定的評価（C「そう思わない」・D「思わない」）』が増加した項目は7項目であった。
減少した項目は9項目であった。
- ・他の項目は、ほぼ横ばい。

<Ⅰ. 重点項目への取組>

「地域の期待に応え、地域とともに子どもを育てる学校づくり」

- ・学校独自項目「地域運営学校である八幡中学校は、地域と協力して子どもを育てている」では肯定的評価が91%、否定的評価は4%であり、数値目標の80%を大きく超えた。
- 昨年度の同様な項目では肯定的評価が48%だったので、質問の表現を変えたことも上昇の原因と思われるが、学校の取り組み状況がよく伝わっていると考えられる。

<Ⅱ 地域とともに子どもを育てる教育>

【広報活動・情報提供】

- ・4-(1)「学校からのお知らせや学校便りなどにより、学校の様子がよくわかる」4-(2)「学校公開や道徳授業地区公開講座などで学校の様子がよくわかる。」の2項目は『肯定的評価』が90%前後となり、一昨年度の数値を取り戻した。4-(3)「学校は地域に向けて学校の良い点などの情報提供をしている」の項目では大きく『肯定的評価』を下げた。4-(4)「学校のホームページは充実している」については、わからない評価が24%と減り、『肯定的評価』が64%と27ポイント伸びた。
- 努力の結果が表ってきている。

【地域との連携】

- ・5-(1)「地域の人材や施設を教育活動に活かしている」の項目では、『肯定的評価』は昨年より6ポイント上がった（80%）。
- ・5-(2)「学校は、地域の活動や行事によく協力している」では83%と昨年度より評価を下げた。評価委員会としては、もっと評価が高く表れてもよいのではと日頃の八幡中の活動を評価しながらも、「期待に応える」という点では、地域の中にはもっと中学生がやってくれるものとの期待があるとも考えられる。
- ・5-(3)「学校協議会が十分機能している」の項目では、『肯定的評価』は60%と大きく上がった（昨年度31%）がまだやや低い。「学校運営委員会」「学校関係者評価委員会」など、学校に関わる委員会の種類や機能が十分説明できていない面もあると思われるため、八幡中学校の「学校協議会」としての独自の活動内容を
もっと知らせていくとよい。
- 学校協議会の機能や活動内容など、広報を充実させていくよう改善をさらに進めてほしい。

<Ⅲ 未来を担う子どもを育てる教育>

【生活指導】

- ・1-(2)「本校では、子どもたちに問題となる行動が少ない」は前年度より21ポイント『肯定的評価』が上がっている（84%）。質問の表現が変わったこともあるが、19年度の数値を取り戻した。

- ・1-(1)「本校の生徒は社会のルールを守っている」1-(3)「本校の教員は、子どもたちのよき手本になっている」2項目で、昨年度より『肯定的評価』はさらに上がっている。
- 地域で徘徊行動があまり見られなくなっているとの評価であると考えられる。

【学校行事】

- ・2-(1)「学校行事の内容は充実している」2-(3)「学校行事のときに地域が協力できることはもっとある」の項目では、『肯定的評価』が大きく上がった。
- ・2-(2)「事前の準備や当日の案内などで地域への配慮がある」は9ポイント『肯定的評価』が下がったが、80%と高水準である。
- 行事については一昨年度の高水準に戻った。努力の様子がよく伺える。

<Ⅳ 信頼と誇りのもてる学校づくり>

【学校運営】

- ・3-(1)「学校の重点目標が明確である」、3-(2)「校長はリーダーシップを発揮している」3-(3)「地域の意見に対して、学校は丁寧に説明・対応している」3-(4)「本校の教職員は、社会人としてのマナーを身に付けている」のどの項目も、昨年度とほぼ同様の『肯定的評価』である（80%前後）。

【安全管理】

- ・6-(1)「本校は、安心・安全な学校づくりを進めている」は9ポイント下げ（80%）、6-(2)「本校は安全性を高めようと、積極的に地域と協力している」は4ポイント上げ（72%）、6-(3)「本校では学校施設の安全性は確保されている」はほぼ横ばい（52%）の『肯定的評価』であった。特に6-(3)「本校では学校施設の安全性は確保されている」は、依然として低水準であり、「わからない」が高い（36%）。
- 安全管理については、何を安全じゃないと考えているのか探る必要がある。

<Ⅴ 教育環境の整備>

（保護者の欄と同様）

<Ⅵ 学校生活全般>

<学校独自項目>

- ・学校独自項目の7-(1)「地域運営学校である八幡中学校は、地域と協力して子ども育てている」では48%から91%と大きく肯定的評価を上げた。質問の表現を変えたこともあるが、活動や努力の様子がよく伝わっていると思われる。
- ・7-(2)「世田谷9年教育パイロット校の指定を受け、小学校との連携を深め、地域の教育力と特色を生かした教育活動を展開している」でも63%から92%と肯定的評価を大きく上げた。
- 地域との連携活動がよく理解されているとともに、よくがんばっているという評価である。地域に人材はいるが、窓口はわからないため、協力できない人もいるので、誰かがコーディネーターとなり、コーディネーターを活かした活動ができるような工夫を求めたい。また学校が必要とする地域の役割や地域のできることは何かについて協議することも大切である。

(3) 生徒の評価

・全22項目中『肯定的評価（A「とても思う」・B「そう思う」）』

5割を超えなかったもの	1項目
5割を超えているもの	1項目
6割を超えているもの	7項目
7割を超えているもの	7項目
8割を超えているもの	6項目
9割を超えているもの	0項目

※参考 昨年度（H21年評価）21項目

5割を超えなかったもの	3項目
5割を超えているもの	2項目
6割を超えているもの	4項目
7割を超えているもの	12項目
8割を超えているもの	1項目
9割を超えているもの	0項目

・昨年度に比べて『肯定的評価（A「とても思う」・B「そう思う」）』が増加した項目は13項目であった。

減少した項目2項目であった。

・昨年度に比べて『否定的評価（C「そう思わない」・D「思わない」）』が増加した項目は2項目であった。

減少した項目は11項目であった。

<Ⅰ. 重点項目への取組>

1 「質の高い学級、まとまりのある学年をつくり、一人一人の可能性を広げる」

・7-(3)「毎日の学校生活が楽しい」の項目で肯定的評価が79%であった。数値目標の100%近くまではいかなかった。昨年度と同じ数値であった。

3 「自己肯定感と自己有用感を高め、生徒一人一人の『夢』をはぐくむ」

・学校独自項目8-(3)「学校生活を通して自分の『よさ』を発見できている」では、肯定的評価が51%だった。初めての質問項目であったが、目標の100%には遠く及ばなかった。「学校生活」の中味を具体的にわかるような表現にするとよいだろう。

<Ⅱ 地域とともに子どもを育てる教育>

【保護者・地域連携】【学校協議会】【広報活動・情報提供】

<Ⅲ 未来を担う子どもを育てる教育>

【教育課程】

・学習指導 1-(4)「先生は、開始・終了時間を守って授業をしている」は64%と『肯定的評価』を13ポイント伸ばしたが、否定的評価はまだ32%（8ポイント減少）ある。

＞ 自己評価では、教員も否定的評価が27%見られた。さらに努力が必要である。

・1-(1)「授業の内容はよく理解できる」1-(2)「わかりやすい指導」は肯定的評価がほぼ80%と5ポイント程度伸びた。(3)「通知表の評価は納得できる」では、『肯定的評価』は昨年度とほぼ横ばい（68%）であるが、一昨年度までよりは高い。『否定的評価』も27%と、やや下げたがほぼ横ばいである。

＞ 評価については授業や保護者会などでの説明がよく理解されてきていると思われるが、自己評価との差が大きいのでさらに工夫が必要である。

・生活指導 すべての項目で『肯定的評価』がさらに上がっている。教員の指導についておおむね納得していると見られる

・学校行事 すべての項目で『肯定的評価』が上がり、80%を超えた。保護者の数値とも比例しており、大変すばらしいことである。

・キャリア教育・進路指導 ほぼ横ばいだが、『肯定的評価』がやや上がっている。しかし、4-(2)「将来の生き方や進路について先生と相談する機会がある」(3)「進路に関する情報を十分提供してくれる」についての否定的評価は26～36%と、まだ十分でないと考えている生徒が多い。生徒のほしいと思う情報とは何かを探る必要がまだある。生徒は先生と個別に話をしたい、自分を理解してほしいと思っていることが、他の項目からも読み取れる。

- ▶ 生徒と先生が話をする機会や時間の増加を願う。

【部活動】

- ・5-(1)「部活動は充実している」(2)「部活動の回数や時間はちょうどよい」(3)「入りたい部活動がある」の項目で『肯定的評価』の回答は、ほぼ昨年度と同様である。継続してほしい。

<Ⅳ 信頼と誇りのもてる学校づくり>

【教職員】

- ・6-(1)先生はいつも熱心に指導してくれる」(2)「先生は誰に対しても公平である」の2項目は『肯定的評価』が前年度を10ポイント前後上回った。(3)「よく私の話を聞いてくれる」についての『肯定的評価』は前年度を3ポイント下げた。教員の取り組みの成果は出ていると思うが、「公平」感については、否定的評価を下げたがまだ高い(33%)。
- ▶ 先生は熱心であるが公平ではないという気持ちの裏返しは、自分のことを分かってほしい、気持ちを聞いてもらいたいということであると思う。生徒の気持ちを理解しようとする指導をお願いしたい。個々の生徒の感じ方にもよるが、何を不公平と思っているのか、耳を傾けることは、変わらずに大切である。

<Ⅴ 教育環境の整備>

(保護者の欄と同様)

<Ⅵ 学校生活全般>

- ・7-(1)毎日の学校生活が楽しい」(2)「八幡中学校が大好きである」の2項目とも80%弱と『肯定的評価』が昨年度と同様に高い。とてもすばらしいことである。

<学校独自項目>

- ・昨年度より取り上げた読書に関する調査では、肯定的評価が20ポイント伸びた(66%)。また、進路についても、多くの情報を渡しているが、その情報から何かを得ることができているかを昨年度より問うた。しかし、その肯定的評価はまだ50%にとどまり、学校の意図した結果が得られていない。「自分の『よさ』を発見できている」については、今年度初めての項目であるが、51%と低調であった。
- ▶ 「よさ」については発問がよくなかったように思われる。もっと内容がわかるように別の表現を考えたい。進路情報については、生徒は何を求めているのか、情報発信の仕方・量に原因があるのか、訊ねてみる必要もあるかもしれない。しかし、進路については本来は親子で考えなければならないことであるから、生徒自身が自分の置かれている状況を理解し、ほしい情報を自主的に積極的に求めることが大切である。発問の仕方も工夫したい。

3. 昨年度の評価で改善・努力をした点

【学習指導について、授業改善をすすめるとともに、学習習得状況を調査・分析し、指導に生かした。】

全校で授業方法や教材の工夫・改善をさらにすすめ、生徒の知的好奇心を湧かせる授業、分かったと実感できる授業を実践することに努めた。

また、毎年4月に1年生で実施していた学習状況確認のための調査を、「世田谷9年教育」パイロット校として、全学年で実施し、小学校との連携のもと、学習確認会議を3回実施した。学習確認会議では、前年度までの学習習得状況調査の結果を分析し、各学年の傾向と課題を検討し、具体的な改善策を提示した。小学校と連携して、授業の具体的な工夫・改善を進めた。生徒一人一人については、調査結果をもとに個別に学習のアドバイスを行った。学習指導について、生徒の肯定的評価が向上した。

【進路指導について、適切な情報を適切な時期に提供しよう努めた。】

1・2年生には「進路だよりJr」、3年生には「進路だより」、全学年保護者には進路説明会への参加を通じて進路に関わる適切な情報提供を進めるとともに、丁寧に相談にのった。肯定的な評価が上がったが、「たより」の内容の工夫はまだ必要である。

【部活動について、一層の活性化に努めます。】

部活指導員の配置により、部活動の現状維持を図り、保護者の肯定的評価を上げることができたが、さらに期待に応えることができるように努力を望む。

【先生について、教員の対応について、現状を明確にして改善に努めた。】

生徒一人一人に丁寧に、きめ細かく指導したり、丁寧に相談できるように努力してきた。改善に取り組んだことにより生徒の肯定的評価が高まった。

【地域との連携について、学校全体で意識の高揚を目指した。】

いずれかの地域行事には必ず教員が参加し、連携を図った。しかしながら、学校協議会の内容については理解を広げることについてはもう少し努力が必要である。

【小・中の接続プログラムの取り組みを実践し、小・中の連携を深め、中学校の広報に努めた。】

生徒会役員が小学校の朝礼に参加し、運動会や学芸発表会のPRを行った。また校長が小学校4年生以上の保護者会に参加し、出前の学校説明会を行った。また、全部活動による、小学校5・6年生の部活動体験を行った。小学校の児童・保護者に変好評であった。「世田谷9年教育」パイロット校としての活動が、保護者・地域によく理解され、肯定的評価が大幅に向上した。

【生活指導について、保護者・地域と協力しながら努力した。】

「問題となる行動が少ない」の項目について、保護者・地域の肯定的評価が上がった。質問の表現が変わったこともあるが、地域で生徒をよく見ている表れとも考えられる。協力関係は今後も探る必要がある。

4. 課題と思われる点について

・学習指導について

生徒の肯定的評価は上がったが、保護者では少し下がった項目もある。特に「通知表の評価」については特に第3学年で評価が少し低い。より納得のいく説明を心がけていくと良い。「授業の開始・終了時間」については、生徒の否定的評価は減ったがまだ32%ある。自己評価でも2割程度できていないと評価している。さらに努力してほしい。

・進路指導（キャリア教育）について

保護者の評価は上がったが、生徒の「先生と相談する機会」については、否定的評価が36%ある。生徒は、もっと相談のってほしいと感じているとうかがえる。機会をつくっていく工夫が必要である。

（昨年度もそうだったが、評価委員会の委員が、学校に関わっていた頃と単純に比較はできないものの、最近先生方の仕事量が増え、それによって、本来生徒と関わるべき時間が圧迫されていると感じる。先生方は、子どもたちと関わる時間をもっと持てるよう、工夫してほしい。）

・学校の安全性について

保護者・地域の「施設の安全性」については、例年肯定的評価の数値が低い。「何の安全性」を求めているのか、老朽化している校舎や耐震性のことなのか、を探る必要性もある。「安全確保のための情報提供」についてもやや低い。保護者への情報発信のための工夫を講じると良い。

・生徒に対して

「小学校との交流」「進路だより」の項目について、評価が低い。実際には、学校はどれもよく努力している。内容について、もっと生徒にPRすると良いだろう。

「自分のよさ」についての評価が低い。質問の仕方も考慮していきたい。同時に生徒に自信をつけてあげたい。

・昨年度の結果を受け改善・取り組んだ項目を見ると、改善策への努力がアンケート結果に結びついていると思われる。しかし、例年課題となることはやはり肯定的評価が低く、具体的な取組の工夫が必要である。

5. 学校関係者評価委員会としての提言

*傾向を探るため、ここ2～3年との比較検討をしてみた。昨年度は『肯定的評価』の数値が軒並み上がった。

本年度は、それをさらに上げているという項目が多いという結果である。全体的によく頑張っている、努力

していると思われる。

- * 肯定的評価の数値が上がってはいるが、まだもの足りない数値の事柄があったり、比較的否定的評価が高い、あるいは「わからない」という評価が高い事柄を見てみると、生徒や保護者とのコミュニケーションをとる物理的な量（時間、場所）を多くすることで、解決されるのではないかと思われる点は、昨年度と同様である。
- * 生徒が教員と話したい、自分のことを理解してほしいと思っていることが表れていると考えられることから、教員が話すための時間や機会を意識的に作り出すことでさらに改善につながるとされる。
- * 検討を要する点は、校内で十分に検討し、具体的な工夫・改善が図れるよう要望する。
- * 「八幡中学校独自設問」では、「地域運営学校としての地域との協力」や「世田谷9年教育パイロット校としての取り組み」について、『肯定的評価』がとても高い。地域運営学校として理解・評価されてきている。さらに理解を深め、協力いただけるように現在の学校の取組を継続、発展させていく活動を期待する。
- * 「学校の情報発信の量や方法は、今までの委員会の提言をふまえ、改善されてきており、現時点では充分である」と考える。この評価結果を、子どもたちによりよく還元していただくことを切に希望する。
- * 行事や部活動に対しての取組を充実させることが、学校生活全般を高めることに繋がる。肯定的評価が、保護者・生徒ともに運動して上がった。すばらしい結果である。学習が基本であるが、まずは集団のムード・八幡中学校の良さを高め、学力向上につながっていくと考える。